

## 第 20 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：平成 29 年 11 月 15 日（水） 14：00～16：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

### 1. 「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」に向けての取り組みについて

NDF より、中長期ロードマップの改定を踏まえた、「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」に向けての取り組みについて説明した。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」に当たっては、検討自体も段階的に作業を進めていくことが重要であり、常にフィードバックをかけながら進めていくことが重要である。
- 安全性の確保は、許認可等において必要となる安全レベルを認識した上で、安全設備等を積み上げていく必要があり、規制当局との調整が重要である。
- 初号機を確定させる際には、サイト全体のリスクを低減させることに配慮するべきであり、様々な判断基準を持って評価を進めていくべきである。

### 2. 予備エンジニアリングの取り組みについて

東京電力より、中長期ロードマップに記載の燃料デブリ取り出し方針を踏まえた当面の取り組みとして実施する予備エンジニアリングの取り組み内容について説明した。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- ステップバイステップのアプローチにおいて、規模を徐々に拡大していく方法を検討する場合に、各ステップにおける連続性を考慮した形で、検討するべきである。
- 試料の移送等について、分析機関と早い段階で調整し、予備エンジニアリングに反映させるべきである。

### 3. 今後の内部調査計画について

IRID より、今後の内部調査計画として、2 号機の PCV 内部調査計画について説明した。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 調査前に考え得る現場条件について想定し、対策を実施したうえで現地調査に臨むことが重要である。

#### 4. 今後の研究開発の推進について

NDF より今後の研究開発について説明した。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 内部調査や研究で得られた知識を今後の作業に活かせるようにすべきである。
- 研究テーマは、燃料デブリ取り出し開始後に必要になる課題も見据え、基盤的な技術の維持としても検討する必要がある。
- 研究開発だけでは無いが、燃料デブリ取り出しの工法等の用語は、具体的な作業が進むこともあり、それぞれ正確に説明していくべきである。

以 上